

ダニエル 11 章

v.2 クロス王(ペルシャ)

⇒カンビュセス II

⇒スメルディス(=アルタシャスタ:エズラ 4:7)

⇒ダレイオス・ヒュスタスパス

⇒アハシュエロス(エステル 1:1/ エズラ 4:6)=第4の者:ギリシャに攻め込む/エステルと結婚

v.3 一人の勇敢な王=アレキサンダー大王⇒死後4つに分割

1.マケドニア:カサンドロス

2.小アジア:リュシマスク

3.シリア:セレウコス(北の王)

4.エジプト:プトレマイオス I ラギ(南の王)

v.5~北の王と南の王

イスラエルは北の王と南の王に挟まれていて、両方の勢力争いに常に巻き込まれる。

---以下「北の王」:シリアを青/ 「南の王」エジプトを赤 に色分けします。---

v.5

その将軍:セレウコス 1 世ニカトル (シリアの将軍だったが、追い出されエジプトにつく、その後シリアに戻り王となる)

v.6 政略結婚。長期にわたる戦争によって疲弊したシリアとエジプトは政略結婚によって和睦をはかる。

南の王:プトレマイオス 2 世フィラデルフォスの娘ベルニケ

北の王:レウコス朝のアンティオコス 2 世テオス

この政略結婚はアンティオコス 2 世が妻のラオディケと離婚し、2人の王子を王位につかせないことを条件になされた。この結婚は悲劇で終わる。アンティオコス 2 世と南の王の娘ベルニケはラオディケに毒殺された。ラオディケはベルニケのすべての子供と従者たちを殺し、自分の子供のセレウコス 2 世カリニクスが王座につけた。これが、「彼女も、供の者も、彼女の子らも、その支持者らも裏切られる」の預言の成就。

v.7-8

この女(ベルニケ)の根から一つの目:

彼女の兄弟プトレマイオス三世ユーエルゲータス。彼は妹ベルニケの復讐をした。彼はイスラエル、アンティオキア、バビロンを攻略し、妹を毒殺したラオディケを殺した。

v.9 北の王のセレウコス 2 世カリニクスはエジプトに復讐しようとしたが失敗

v.10 北の王の息子たちはセレウコス 3 世・セラウヌスとアンティオコス 3 世・マグナス。アンティオコス 3 世は大軍を編成して南の国に侵入し、イスラエルを占領し、「敵の城塞」と書いてあるエジプトのガザの城を攻略

v.11

激怒して南の王**プトレマイオス 4 世・フィロパトル**が北を攻撃。北の王の**アンティオコス 3 世**は 7 万人の大軍を率いたにもかかわらず紀元前 217 年のラフィアの会戦で、**プトレマイオス 4 世**に敗れる。

プトレマイオス 4 世はこのときイスラエルを奪還する。

v.12 「勝利を得ない」

プトレマイオス 4 世ユダヤ人数千人を虐殺した。その後、まもなく気が狂ってしまい、彼と王妃は変死した。エジプトではわずか 5 歳の**プトレマイオス 5 世・エピファネス**が即位した。

v.13

幼い王が即位したのを好機と考えた北の王である**アンティオコス 3 世**は紀元前 205 年に前よりもっと多い軍隊を率いてエジプト攻略に乗り出した。

v.14

「あなたの民の暴徒たちもまた、高ぶってその幻を実現させようとするが、失敗する。」v.13 のとき、一部のユダヤ人が**アンティオコス 3 世**と同盟を結んで敵対勢力を倒そうとしたが失敗した。

v.15 **エジプトの将軍スカパス**が 10 万の軍勢を率いたが敗北

v.16 **アンティオコス 3 世**が「麗しの地=イスラエル」に侵入。

v.17

アンティオコス 3 世エジプトのすべてを支配しようとしスパイ政略結婚 (B.C198)

アンティオコス 3 世の娘のクレオパトラと南の王**プトレマイオス 5 世・エピファネス**と婚約。

クレオパトラはほんの小さな子供だった。アンティオコス 3 世は娘にスパイ活動をさせて、エジプトを滅ぼそうとしたが、クレオパトラが逆に夫である南の王を愛するようになり、夫を助けて父アンティオコス 3 世逆らうようになったので頓挫した。

v.18

アンティオコス 3 世はエジプト征服に失敗したので、次に西方に目を向け、小アジアの海岸から離れている数個の島を征服した。

一人の首領：ローマの将軍ルキオス・スキピオ。紀元前 190 年にマグネシアの会戦でアンティオコス 3 世のシリア軍を破った。

v.19

この敗戦の結果、ローマから毎年 1 千タラントンの罰金を課せられることになった。そこで、彼は自国内の寺院から財宝を徴収したが、領民の怒りを買って殺された。

v.20

一人の王(北)：**セレウコス 4 世フィロパメール**。彼はローマに罰金をおさめるために、ユダヤ人から重税を取り立てて憎まれた。彼はヘリオドルスという大臣に「エルサレム神殿から財宝を略奪せよ」と命じたが、そのヘリオドルスに毒殺

v.21-35 「一人の卑劣なもの」

反キリストの型である **アンティオコスIV・エピファネス** (ダニエル 8 章)

v.21 もともとは王位から遠い人物だったが、へつらいと策略によって王座を得る。

v.22

アンティオコスIV・エピファネスは「契約の君：ユダヤの大祭司オニヤス 3 世」を打ち破り、傀儡の異邦人の大祭司ヤソンを立てて、ユダヤ人を圧迫する。

v.23

アンティオコスIV・エピファネスは多くの小国と平和条約を結んで油断させておき、自分に力がついたら一方的に条約を破って侵略することを常套手段とした。

反キリストが多くの国々やユダヤ人と契約を結んでおきながら、後で破棄するやり方と同じ。

v.25-26

南の王は**プトレマイオス 6 世・フィロメートル**は大軍を率いて**アンティオコスIV・エピファネス**に抵抗するが、自分の部下の裏切りによって敗北

v.27

アンティオコスIV・エピファネスと**プトレマイオス 6 世・フィロメートル**は食卓について陰謀を企てるが、互いに偽りを言って成功しない。

v.28 **アンティオコスIV・エピファネス**は紀元前 168 年にイスラエルに侵入し、エルサレムを攻め、多くのユダヤ人を殺し、神殿の貴重な宝物を奪った。

v.29

アンティオコスIV・エピファネスはもう一度エジプトに攻め込む失敗。

v.30-31 キティム(キプロス)の船隊とあるローマの艦隊によって妨げられる。

その腹いせに、**アンティオコスIV・エピファネス**はユダヤの地で悪事を行う。多くの背信のユダヤ人が彼に味方した。すべての動物の献げ物は廃止され、ユダヤ教の儀式を禁止した。神殿の器具は律法で汚れた動物とされる豚の血によって汚され、神殿そのものもゼウスに献げられてしまう

v.32-35

アンティオコスIV・エピファネスに対してのユダヤ人

1. 背教者
2. 殉教者

祭司マタティアと 5 人の息子、特にマカバイと呼ばれるユダが活躍した。神殿を奪還。(マカバイ戦争)

v36-45 大患難時代(黙示録 6 章-18 章)

「ダニエルの 70 週：9:24-27」の最後の 1 週=7 日⇒7 年について

世界史の中で成就したものは見当たらない。そのため、これらはすべて未来の出来事

※35 節と 36 節の間には少なくとも 2000 年以上の時間的な隔たり

v.36

この王=反キリスト

1. おもいのままにふるまい(v.36)
2. すべての神よりも自分を高め(v.36) テサロニケ II 2：3-4。
3. 憤りが終わる時がまで栄える。(v.36)
4. とりでの神をあがめ・・先祖の知らなかった神をあがめる(v.38)
5. 彼が認めるものには栄誉を増し加え、多くの者を治めさせ、代価として国土を与える。(v.39)

v.40-45

ハルマゲドンの戦いに至るまで

v.45

反キリストとのハルマゲドン：黙示録 16:16)

「海と美しい山との間で・・」⇒地中海とエルサレムとシオンの山?

「しかし、ついに彼の終わりの時が来て、彼を助ける者はひとりもない。」

⇒キリストが再臨して反キリストの統治が終わる